

学力調査結果 【3年生】

(1)全体を通して

今年度は、国語科と数学科が、平成28年4月実施の「全国学力学習状況調査(文部科学省)」の結果、その他の教科については6月実施の「練馬区立学校学力調査」の結果を掲載しています。

5教科とも、全国および都の平均正答率と同等か下回る結果でした。内容的に見ると、各教科の特性はあるものの、「思考・判断・表現」の観点については、全国と同様に正答率が低く課題であるという結果でした。

この結果から、昨年同様、授業の中で生徒が自ら「思考・判断」し「表現」する機会を増やすことが必要であると考えます。教師が一方的に進めるのではなく、1時間の中で生徒が自ら考える場を設定し、個々の生徒が自分の力で考え解決する機会や、課題解決の過程や考えを発表する機会を積極的に設ける必要があると考えています。

(2)教科別結果

3年		平均正答率			備考	分析
		本校	都	全国		
観点別 正答率	国語	77.0	79.0	77.4	B問題	今年度は観点別の正答率は、どの観点も都や全国の平均値とほぼ同様の結果だった。「書く能力」「読む能力」については、文章の内容を整理して捉えたり、その内容に対して自分の考えをもたせて書かせたりする活動を行った成果だと言える。ただし、「言語についての知識・理解・技能」の正答率が他の観点に比べて低かった。朝授業などで語彙力を高め、漢字の小テスト等を行って言語の知識の定着を図る必要がある。また、B問題では、目的に応じて資料を効果的に活用して話す設問の正答率が低いことが分かった。授業で資料を活用してまとめ、発表させる活動などを取り入れる。
	国語への関心・意欲・態度	56.4	60.6	58.3		
	話す・聞く能力	76.6	78.2	75.4		
	書く能力	87.3	87.0	85.7		
	読む能力	76.0	76.3	73.8		
言語についての知識・理解・技能	76.0	77.8	77.2			
3年		平均正答率			備考	分析
		本校	区	全国		
観点別 正答率	社会	49.3	52.1	55.4		すべての観点で都や全国の平均値を下回る結果となった。内容別にみると歴史的分野の戦国時代から江戸時代にかけての知識や資料の活用能力が不十分であった。観点別に見ると、「社会的な事象への関心・意欲・態度」が低く、授業中に時事問題などを取り上げて関心や意欲を高める必要がある。また「思考・判断・表現」「資料活用」の能力も低く、地図や資料などを活用して考察し、自分でまとめて表現したり書いたりする活動を授業中に取り入れる。
	社会的な事象への関心・意欲・態度	45.8	49.4	52.5		
	社会的な思考・判断・表現	41.1	44.2	47.2		
	資料活用	49.8	51.9	55.9		
	社会的な事象についての知識・理解	53.5	56.0	59.4		
3年		平均正答率			備考	分析
		本校	都	全国		
観点別 正答率	数学	62.0	66.0	64.6	設定なし B問題	今年度は全国、東京都の平均正答率よりも下回る結果となった。「技能」については身に付きつつあるが、「知識・理解」「数学的な見方・考え方」については不十分な単元が多い。図形に関する問題では5～10ポイントと都の平均正答率よりも高いが、関数では都の平均正答率より7～10ポイント下回っている。自分の考えを表現したり、説明したりする力を付けて理解を深めていく必要がある。また単元ごとに内容の定着が図れたかを診断テストでチェックし補っていくとともに習熟度別指導を活用し個人差に応じて指導をしていく。
	数学への関心・意欲・態度					
	数学的な見方や考え方	38.4	38.8	36.8		
	数学的な技能	59.6	64.4	61.2		
	数量や図形などについての知識・理解	80.7	84.9	85.1		
3年		平均正答率			備考	分析
		本校	区	全国		
観点別 正答率	理科	52.5	55.3	59.8		今年度は観点別で「観察実験の技能」については都を上回ったが、その他については全国や都の平均値を下回る結果となった。特に「科学的な思考・表現」「知識・理解」については実験結果をまとめ考察する活動などを取り入れ、知識の定着とともに、レポートなど書いて説明する力を伸ばす必要がある。内容では化学変化や生物と細胞の単元では全国平均を上回ったが、電流の単元では身に付けなければならない内容が多く、朝授業などで定着を図る。
	自然事象への関心・意欲・態度	55.6	56.2	60.3		
	科学的な思考・表現	45.9	50.7	53.5		
	観察・実験の技能	59.8	54.4	61.5		
	自然事象についての知識・理解	53.7	58.0	62.8		
3年		平均正答率			備考	分析
		本校	区	全国		
観点別 正答率	英語	64.7	73.0	67.4		今年度は全国よりも東京都の平均が高く、その平均値を下回る結果となった。観点別では、昨年同様「表現の能力」が最も低く、場面に応じて書く力や課題に沿って3文程度の英文を書く力が課題である。また「理解の能力」では、過去進行形や接続詞など語形・語法の知識・理解に課題が見られた。学力の2極化がある中、朝授業などの時間に基本的な文法事項を定着させ、それを活用して表現に生かすような書く活動などを行い、少人数指導の中で、さらに個人差に応じた指導の充実を図る。
	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	61.7	69.9	64.8		
	外国語表現の能力	41.5	54.1	47.9		
	外国語理解の能力	71.7	77.3	72.8		
	言語や文化についての知識・理解	66.7	76.7	69.6		

◆国語・数学は文部科学省「全国学力・学習状況調査結果」に基づく分析。

◆社会・理科・英語は「練馬区立中学校学力調査結果」に基づく分析。